

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録、モアレ検査の画像、X 線検査の画像とそこから測定した背骨の曲がりの角度（コブ角）、および学校検診で行われたモアレ検査（読影）の記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、これらの情報を研究に利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もあります。なお、学校検診のデータは個人を特定できない形で提供されているため、当施設では個々のデータを特定して取り除くことができません。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	モアレ画像を用いた深層学習による脊柱側弯症スクリーニング支援に関する後ろ向き観察研究
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長
研究責任者 (個人情報管理者)	整形外科 講師 日野 雅之
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2029 年 3 月 31 日
対象となる方	①当院でモアレ検査と同じ日に X 線撮影を受けられた患者さん(2024 年 4 月～2026 年 6 月) ②愛媛県の学校検診でモアレ検査を受けられた方（令和 5～7 年度＝2023～2025 年度）
利用する試料・情報等	（カルテ情報）年齢、性別、身長・体重、学年、検診での判定結果 等 （画像・記録）モアレ画像、X 線画像とそこから測定したコブ角、学校検診のモアレ読影記録
研究の概要 (目的・方法)	脊柱側弯症の検診では放射線を使わないモアレ検査が用いられています。本研究は、既に記録されているモアレ画像をコンピュータ（人工知能）で解析し、背骨の曲がりの程度（コブ角）をどの程度正しく推定できるかを調べます。あわせて、実際の学校

	検診での判定と人工知能による判定がどの程度一致するかを調べ、今後の側弯症検診の読影支援・負担軽減に役立てることを目的としています。新たな検査や来院をお願いすることはありません。
個人情報の保護 について	この研究で用いる情報は、氏名・住所・生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除し、誰のものか分からないようにした上で利用します。患者さんを特定するための対応表は院内で厳重に保管し、外部への提供は行いません。学校検診のデータは、あらかじめ個人を特定できない完全に匿名化された状態で当施設に提供されます。解析は院内のパソコンのみで行い、外部（クラウド等）へ持ち出しません。研究結果は学術雑誌や学会等で発表しますが、個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院 整形外科 研究責任者 日野 雅之 〒791-0295 愛媛県東温市志津川 454Tel: 089-964-5111（代表） 整形外科医局直通 089-960-5343（受付時間 9:00～17:00、土日祝日・年末年始を除く）